

日本語の得意な外国人材が日本語を教える、  
会社が仕事と生活を全面的にバックアップする。

CASE  
07

COMPANY

## スズキハイテック株式会社



### 企業概要

- 企業名：スズキハイテック株式会社
- 所在地：山形県山形市銅町二丁目2番30号
- 設立年：1914年
- 資本金：6,900万円
- 従業員数：185名  
うち高度外国人材30名／国籍内訳：インドネシア1名、ボリビア1名、フィリピン3名、ネパール25名
- 業種：製造業（表面処理業）
- ホームページ：<https://www.sht-net.co.jp>

### 事業内容

創業以来、時代のニーズに合わせてめっき技術を磨き続ける。現在は自動車（HEV・PHEV・EV・FCV）部品やパワー半導体、MEMS（微小電子機械システム）、CFRP（炭素繊維強化プラスチック）などのめっきを手がけている。

### 企業インタビュー



主事  
武田 寛貴 氏  
担当部署：総務部

### 高度外国人材を受け入れたきっかけ・背景

#### メキシコ法人を設立、スペイン語の通訳者を探していた

創業100周年を翌年に控えた2014年、メキシコ法人を設立しました。そのとき、公用語のスペイン語を話せる技術者を雇用しようと考えたのですが、適任者が見つかりませんでした。そこで、スペイン語圏の人材を探し始めたところ、お取引先でインターンシップをしていた山形大学のボリビア人留学生を紹介されたのです。弊社の代表が面談し、採用。彼は、今もメキシコで頑張ってくれています。

### 高度外国人材受け入れに当たっての取組内容

#### お互いの文化を理解し、コミュニケーションを円滑にする

国籍や宗教、文化の違いをお互いに理解し、尊重した上で、一緒に頑張ろうという意識の醸成を図っています。とはいえ、初めての高度外国人材の受け入れから約10年が経ち、日本人社員たちも外国人と働くのにすっかり慣れて、「やさしい日本語」などの分かりやすい日本語を使い、円滑にコミュニケーションが取れるように心がけているようです。

### 高度外国人材採用に当たっての課題と解決策

#### 面接で重要視しているのは、明確な目標があるか否か

もちろん採用試験があり、日本語能力を始め採用基準を設けています。特に重要視しているのは、目標。母国を離れて日本に来て、日本の企業で働きたいというわけですから、ほとんどの人は目標を持っています。ところが、なかには明確ではない目標もありまして、採用には至らないこともありますね。

そのほか、採用活動の課題は特段ありません。気をつけているのは、

「外国人」あるいは「ボリビア人」「インドネシア人」と一括りにはしないこと。おおまかな傾向はあるとはいえ、考え方も将来の夢も個々に異なります。なので、一人ひとりと向き合うことが大切だと考えています。それは採用後も同じで、それぞれの声に耳を傾け、困りごとなどは聞き出して、こまやかなケアを心がけています。

## 高度外国人材定着に当たっての課題と解決策

### 安心して長く働けるように、生活や家族のサポートも

弊社も人材の定着には心を砕いています。特に外国人材の場合、労働環境を整えるだけでなく、生活のサポートもします。市役所の手続きなどは日本人でも分かりにくいので、外国人材にはなおさらですから。仕事のない土曜日には、日本語レベルの高い外国籍社員が講師になって、日本語勉強会を開催しています。

定着の一番の解決策は、家族ですね。異国では一人暮らしよりも家

族と一緒に暮らすほうが良いと思うので、来日した家族の就職活動などもサポートしています。山形市内には日本語の話せない人が働ける企業はほとんどありませんから、弊社で雇用しています。また、子どもの幼稚園・小学校・学童保育などの説明会に同席することも。ただし、日本語ができないと日常生活にも支障を来すので、基本的には日本語でやり取りしています。

## 高度外国人材活用による成果・変化

### 社員が前向きになり、生産性も売上もどんどん向上した

国民性の違いはあるものの外国籍社員は、概してポジティブ思考です。失敗を恐れず、自分たちで考えて、次々と行動に移していきます。一方、日本人社員たちはどちらかというとネガティブ思考で、失敗を恐れるあまりに動けません。

ところが、一緒に働くうちに、日本人社員が前向きになったのです。あててみよう、こうしてみよう、こっちのほうが良いのではないかと、外国

籍社員たちが試行錯誤する姿に触発されたようで積極的にチャレンジするようになりました。今や社内全体がポジティブ思考へと変わり、社風といってもいいかもしれませんね。その結果、生産性がどんどん上がり、それに伴い、売上も上がるという好循環が生まれました。

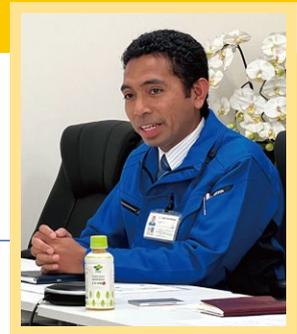
## 高度外国人材社員インタビュー

### INTERVIEW

### 研究を続けながら、 大学教授になりたいです。

Petrus Yesaya Samori 氏  
(ペトルスヤサヤサモリ)

国籍：インドネシア  
2018年入社



### 入社理由

私の出身であるインドネシアのパプア州は山形県の姉妹県州で、1994年から毎年、文化交流を続けています。山形県の人たちに出会い、山形県に親しみを感じるようになりました。高校卒業後は山形大学に進学。大学院修了後、就職支援の先生の紹介により、弊社の社長と面談しました。社長の「山形県をもっと元気にしたい」という思いに感銘を受けて、入社を決めました。

### 業務内容

事業開発部事業開発課主事として、新規事業のための開発を任されています。営業も担当して、特に展示会ではポスターやチラシの作成から、来場者への説明なども行っています。今でこそ慣れましたが、お客様と対話して、見積書を出して、いろいろと調整しながら、受注まで結びつけるのは難しかったですね。

### 東北地域で働く理由・良さ

山形県とパプア州の架け橋となって、山形県を元気に、パプア州を更に発展させたくて、山形県で働きたいと考えていました。大学のころからずっと米沢市で暮らしているので、ふるさとのように感じています。じつは一軒家を買って、永住許可申請をする予定です。今のご近所の方々も温かく、家族のように受け入れてくれたので、住みやすいです。

### 今後のキャリアプラン

もともとの専門はバイオ化学で、博士(工学)を取りました。弊社に入社後、株式会社ハイテクノ(横浜市)の上級表面技術講座に通い、めっきの勉強をしました。両方をいかして、会社で研究開発を続けながら、大学教授になりたいです。将来的には、日本の若者とインドネシアの若者が切磋琢磨しながら成長できる場をつくれればと思います。